

平成30年度JKA補助事業(研究補助)について、2回目の自己評価を行ってください。

・提出期限：2020年4月24日(金)

・提出先：m30hyoka@keirin-autorace.or.jp

≪自己評価書(2回目) 記入のしかた・記入例について≫

- * **青字部分**は記入例です。記入の際、参考にしてください。
- * **水色箇所**は記入箇所、**ピンク色の項目**は選択肢の中からひとつを選択していただく項目となります。
- * 以下の【記入にあたっての注意点】もご一読のうえ、ご記入ください。

平成30年度自己評価書(2回目) 様式・記入例 ↓

【記入にあたっての注意点】

補助事業番号	2018M -	150	補助事業者名	〇〇大学 工学部 競輪太郎	補助事業名	〇〇〇〇の開発
--------	---------	-----	--------	---------------	-------	---------

平成30年度 JKA補助事業 自己評価書(2回目)

作成日	2020	年	4	月	15	日	作成者	競輪 太郎
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

1. 以下の評価項目について、ご記入ください。

a. 個別の評価項目について、交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書(3/5)4. 補助事業の事前計画』の、達成状況等を把握し、ご記入ください。

○採点基準については、平成30年度補助事業実施に関する事務手続要領『別冊評価要領』p27,28 スコアリングガイドをご参照ください。

(2) 事業内容	(1) 受益者 (ニーズ)	今回の研究で〇〇〇を開発したことにより、災害や事故など危険を伴う現場において、従来できなかった〇〇〇が可能となることを示すことができた。それにより、災害や事故の現場における被災者やレスキュー隊等、救助に携わる人だけでなく、建築現場等危険を伴う作業に従事する人など受益者のニーズに応えるための素地を整えることができた。	採点	4				
	事業の新規性または継続の必要性	本研究で開発した〇〇〇は………が可能となり、従来のもより〇〇〇〇〇〇の性能が格段に向上した。それにより、これまで不可能であった〇〇〇〇〇〇が可能となることを示すことができた。	採点	4				
		事業の発展性	本研究の成果により、〇〇〇〇〇〇において、〇〇〇を用いた新たな形態での〇〇〇を示すことができ、より効率的な〇〇〇〇〇〇をより広い範囲で実現する可能性を示すことができた。今後、更なる研究を進め実用化ができれば、災害や事故の救助の現場で〇〇〇による、より危険の少ない救助活動が可能となる。今回、それを実現させるための素地ができた。	採点	4			
(3) 達成目標	事業の成果・波及 ※自己評価1回目から変化があった場合に記入してください。	4件	達成状況	133%	具体的内容	1回目の自己評価時では学会発表等が2件であったが、その後〇〇〇学会、●●●学会にても発表を行った。	採点	5

◆補助事業番号、補助事業者名(大学・学部名、研究者名)、補助事業名を記入してください。

◆この自己評価書の作成日、作成者を記入してください。

◆交付誓約書添付の事前計画／自己評価書(3/5)の目標に対し、どれだけ達成できたかを記入してください。
採点欄については、別シートのスコアリングガイドを参照の上、採点してください。
(点数はプルダウンで選択できます)

◆(3)達成目標については、1回目の自己評価時から達成状況などに変化があった場合、変化があった後(現在)の状況について記入してください。
!! 注意 !!
・「達成値」現時点での実績値を記入して下さい。
・「達成状況」のパーセンテージについては、1回目の自己評価時との比較ではなく、事前計画／自己評価書(3/5)記入の内容と比較して算出して下さい。

b. 交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書(2/5) 3. 補助事業実施の必要性(1)補助事業が最終的に目指すこと』の、現時点での達成状況を記入ください。(過去年度から継続して実施している事業の場合は、それも踏まえてください。)

「最終的に目指すこと」としては、災害や事故現場で実際に作業することができるロボットを開発し、一刻を争う状況において迅速な救助活動への対応を可能とすることであるが、今回の研究では、〇〇〇が可能な〇〇〇を開発し、プロトタイプを製作しその有効性を明らかにすることができた。
今後、研究を〇〇〇段階に進ませ、実用化に向け引き続き研究にも取り組んでいく予定である。

◆事前計画／自己評価書(2/5)の「最終的に目指すこと」に対して、現時点での達成状況を記入してください。

2. 補助事業として実施した研究内容の段階を選択してください。

- 基盤(実用化以前の段階)
- 実用化(試作品の開発、装置の開発)
- 製品化(注文販売化、量産化)

◆あてはまるものをひとつ選択してください。

3. 補助事業として実施した研究内容について、現時点での論文発表・学会発表等、対外的に発表した実績及び予定があればご記入ください。
(発表時期及び発表先、また、論文発表については査読付きである場合、その旨もご記入ください。
【例:「テーマ・論文名」 〇〇学会 第〇回〇〇国際会議 〇〇年〇月〇日】)

・「テーマ 〇〇〇〇〇〇」 第〇回〇〇学会 春季大会 2018年〇月〇日～〇日
・「テーマ 〇〇〇〇〇〇」 第〇回〇〇学会 講演会 2019年〇月〇日～〇日
・「テーマ 〇〇〇〇〇〇」 International Symposium on 〇〇〇〇 2019年〇月〇日～〇日 査読付き
・「テーマ 〇〇〇〇〇〇」 International Conference 〇〇〇〇 2019年〇月〇日～〇日 査読付き

◆今回、補助事業として実施した研究内容について、論文発表・学会発表等、対外的に発表した実績を記入してください。また、今後発表する予定についても記入してください。

4. 補助事業の研究結果は今後どのような産業(分野)に役立つと推測されますか。具体的にご記入ください。

〇〇〇に有用な技術としてロボット工学、ロボット産業分野の発展、また、それとともに関連分野の〇〇工学の分野にも寄与することができる。さらには、建築現場等、危険を伴う作業を行う現場等でも有効となる可能性が大きいことから、建築分野や土木工学分野にも役立つと思われる。

◆今回、補助事業で行った研究が、今後どのような産業(分野)に役立つと思われるか、なるべく具体的にご記入ください。

5. 補助事業から得られた研究成果が、社会で実用化・製品化されるのにどの程度の年数が必要と考えられますか。

- 補助事業年度内に既に実用化・製品化済み
- 1年以内
- 1～3年程度
- 3～5年程度
- 5年以上
- わからない
- その他

◆あてはまるものをひとつ選択してください。

※その他を選択した場合、詳細をご記入ください ⇒

※「その他」を選択した場合は、その詳細を記入してください。

6. 今後、当該研究の継続や当該研究と関係する研究を行う予定があればお聞かせください。

本事業による成果をベースとする発展研究が科研費に採択されたため、現在、より具体的な〇〇〇の検討を実施している。また、今後も研究を継続し、実用化に向け動いていく予定である。

◆今回の補助事業で行った研究やそれに関連する研究について、今後継続して研究を行う予定があれば、その内容について記入してください。

7. これまでにJKA以外の団体から研究助成を受けたことがあれば、その団体名・研究助成の名称等をお聞かせください。

科研費 基盤研究C
(公財)○○財団 ○○○○研究助成
(公社)●●財団 ●●●●研究助成金

◆今回行った研究テーマに限らず、過去、助成を受けたことがある助成団体やその団体が行う助成事業の名称をご記入ください。
特になければ「特になし」と記入してください。

8. 様々な研究助成があるなか、JKA補助事業に要望された理由があればお聞かせください。

○○学会にてJKA補助事業の紹介がされており、JKA補助事業の対象が自分の研究分野と一致した。
○○○の開発には特に多額の費用が必要となるため、他の助成に比べて額が大きい点JKA補助事業を選んだ。

◆JKA以外の団体でも研究に対する助成事業を行っていますが、複数ある研究助成事業の中からJKAの補助事業を選んだ理由を記入してください。

9. 研究分野を取り巻く状況や課題をお聞かせください。

近年、自然災害等が多く発生しており、この分野の研究の意義が大きくなっているが、実用化に向けては多くの課題を解決していかなければならず、他の研究者と共同で取り組んでいく必要があると考えている。
また、各研究機関における研究費の額が低下していることに加え、その自由度も非常に低下してきており、研究の実施において臨機応変に対応することが難しくなっている。

◆研究分野を取り巻く状況や、研究を行うにあたっての課題等をご記入ください。

10. 上記1～9の補足や、JKAに対するご要望等がございましたら、ご記入ください。

今後も継続して研究者に対して補助を行ってほしい。

◆この自己評価の補足や、JKAに対する要望等を記入してください。

以上です。ありがとうございました。 m30hyoka@keirin-autorace.or.jp までご送信ください。

【研究補助】